

## キーワード1 受 容

中学2年のAさんは、先日、1年生のBさんが、あいさつをしなかったことで文句を言い、顔を殴る事件を起こした。担任のC教諭が指導したが、その後もBさんへの暴力行為が続いたので、C教諭は再びAさんと面談をした。

C教諭：「暴力がいけないことは、君だって分かっているだろう。」

Aさん：「Bを見ると、むかつくんだよ！なんか、すぐに殴りたくなる。」

C教諭：「むかついて殴りたくなるのか、Bさんを。」

Aさん：「ああ。いろいろあいつにやられたから…。」

C教諭：「いろいろって？下級生だろうBさんは。」

Aさん：「あいつは、おれの家の近所でさ、下級生のくせしていつもおれをバカにしていたんだ。」

C教諭：「なにか、言われたことでもあるのか？」

Aさん：「ああ…チビって。」

C教諭：「どうしたんだい、そのとき？」

Aさん：「別に…ほっといた、そのときは…。」

C教諭：「くやしかったけど、我慢していたのか。今それをお返ししているのかな。」

Aさん：「ああ…。」



この事例では、担任は、「悪いことは悪い」と指導した後で、問題行動を繰り返す子供の気持ちを受け止め、理解しようと努めています。そのことが、本人の心の奥にあるものを吐露させています。

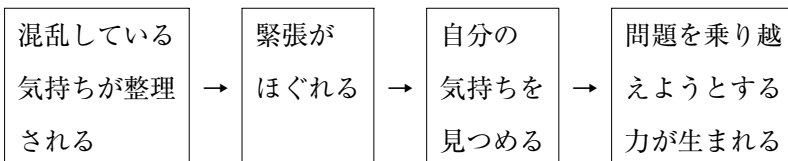
### 叱るべきは叱って

ある調査で、生徒が嫌いな先生のタイプをあげてもらったところ、「叱るべきところで叱らない先生」というのが上位に挙げられていました。教育相談は、生徒を甘やかしてしっかり指導をしないのではないかという意見があります。しかし、子供は「いけないことはいけない」と指導されることを望んでいます。子供の行った行為の非は非として指導し、そのあとに教育相談的姿勢で子供に接することが大切です。

### 気持ちの受容が内省を生む

行動には、感情が伴います。どのような行動をしたとしても、本人なりの理屈や思いがあります。「してはいけないことをした」と承知していても、そんな自分を分かって欲しい、受け止めて欲しいと思っているものです。

自分の気持ちを受け止めてもらえると、



というステップを踏んで、問題解決に向かうことができます。